

水郷めぐり

ボートは静かに揺れ、鳥のさえずりとヨシの風切り音が聞こえるだけだ。ボートの両側には、背の高い緑の草が何千本も並んでいる。水しぶきが上がり、左側に赤い首が特徴的な小鳥、カイツブリがやってきた。餌を求めて飛び込み、去っていく。前方には、背の高いシラサギの優雅な姿が浅瀬をゆっくりと歩いている。

近江八幡の水郷では、ヨシ原、湿原、水田を流れる水路が、近江八幡の町と琵琶湖を結んでいる。こののどかな風景を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごすことができるのが、水郷めぐりの遊覧船だ。

4 社が水郷めぐりのボートツアーを行っている。モーターボートが 2 社、手漕ぎボートが 2 社で、船尾の船頭が推進と舵取りをする。どの船も屋根付きで、内装はシンプル、床は畳である。船に乗るときは、靴を脱いで屋根のある部分に入り、畳の上に座るのが基本だ。

近江八幡の水郷めぐりは、16 世紀、八幡山城主・豊臣秀次が船上で茶会を催したのが始まりとされる。現在では、お茶の代わりに食事を予約して船上で楽しむことができる。お弁当や近江牛のすき焼きコースは各社で用意されている。